SORA
web magazine 2015.may. vol.54
Travel

プエルトガレラ PHILIPPINES

PUERTO GALERA

MAP CLICK!

PHOTO & TEXT : YASUAKI KAGII

3日間のプエルトガレラ

2015年1月下旬から2月の中旬に掛けての3週間、フィリピンの有名ダイブディスティネーションを5カ所巡ってきた。最初に向かったのプエルトガレラ。名前は聞いたことがあったけど、どのような海なのか？　全く想像がつかなかった。マニラからバス、船を乗り継いで向かった先には、日本人ダイバーが体験するべき、素晴らしい海が待ち構えていた。今回は、2泊3日の6ダイブしかできなかったが、収穫の多い取材となった。私たちには新しい海・プエルトガレラの海の素顔をどうぞ!

tsumi-shima
ダイバーの夢をつみあげていく島
tsumishima.com
We World explorer
(株)ワールドツアープランナーズ
www.wtp.co.jp
© 2015
World Tour Planners Co.,Ltd.
All Rights Reserved.

プエルトガレラ PHILIPPINES

Travel PUERTO GALERA

プエルトガレラに到着！

羽田空港に夜11時半に集合。深夜1時半発のフィリピン航空に乗り、マニラに到着したのが、朝の5時半。そのまま送迎車で、近くのホテルへ。ホテルのロビー、またはレストランで約2時間ほど休憩。私はロビーのソファで眠りについていた。朝の8時半。ホテルの向かいの通りから出発する大型バスに乗り込み、バタンガスの港へ。所要時間は約2時間。途中でトイレ休憩がある。バスが到着すると、荷物を運んでくれるポーターがたくさん待っている。大きな荷物を持っている方は、ポーターに荷物1つ20ペソで頼んだ方が良い。というのも、バス乗り場から、船のチェックイン、または船の乗り場まではかなりの距離がある（チェックインの時にポーターにチップを渡してしまうと、荷物運びはそこまでになってしまうので、船に乗るまでチップは払わない方が良い）。船は大きなバンカーボート で、揺れるときもあるらしいので、中央あたりに乗るのがお薦めかも。約1時間。目指すムリエまでの途中、サバンを経由するので、降りる場所に気を付けたい。ムリエの港に付いて、迎えに来てくれたトライシクルの送迎車で約2分ほど、宿泊施設であるオリエンタルパールリゾートに到着。オーナーであるモルテル琴さんが、とびきりの笑顔で迎えれ入れてくれた。到着したのは、午後1時。「お昼からのボートダイビングのために、2時にはリゾートを出発したいです!」と琴さん。ちょっと急ぎ足で水中カメラをセッティング して、琴さん手作りの美味しいクラブサンドウィッチを食べて、またトライシクルに飛び乗ってサバンにある ABwonderdive に向かった。

プエルトガレラ PHILIPPINES

Travel PUERTO GALERA

1日目の1ダイブ

プエルトガレラはフィリピンでも人気のあるダイビングエリアで、主にヨーロピアンダイバーから支持され続けてきた。マニラからも近く、通い易いので、マニラ在住の日本人ダイバーには、隠れ家的なリゾートとなっている。今回、お世話になるダイビングセンターは、オリエンタルパールリゾートの琴さんお薦めのダイビングセンター。琴さんは以前、プエルトガレラで長くダイビングガイドをされていて、その時に色んなダイビングセンターでお世話になったそうだが、ABwonderdive が、一番日本人ダイバーに適し、良いサービスを提供してくれると確認したらしい。その話を昼食時に聞いたので、少し安心してダイビングセンターでのチェックインなどをスムーズに済ますことができた。

1本目のダイビングは、ダイビングセンターの前に位置するファンタジーリーフ。初級者から楽しめるポイント。モーリングブイのロープ沿いに潜降。水深12mの海底には程よいサイズの根があり、テーブルコーラルやウミシダが付着している。キンギョハナダイの数も多く、海中はとても賑やか。昭和の男前俳優のようなマーロンが、律儀にも他のカメラ派ダイバーが撮影している被写体の順番待ちをしてくれている（水中でたまたま重なっただけで、混在はない）。私の番が来た。彼が指差すのはオオモンカエルアンコウだった。そして、ツバメウオの幼魚などを見ながら、結局、ダイビングセンターの前まで、潜って移動してしまった。最初の海の印象は色のある賑やかな海というものだった。

2日目の1ダイブ

2日目の朝。広いベットでぐっすり眠り、鳥の声で目を覚ます。6時半。早起きが得意な私も思ったよりもぐっすり眠っていた。7時から1階のレストランで朝食。メニューは和食、フィリピン朝食などで和朝食を選択。ごはん、お味噌汁、卵焼き、サラダと美味しい。8時にダイビングセンターに出発。またトライシクルに乗って、サバンのダイビングセンターへ。2台の水中カメラを持ち込み、約10分ほど移動。各ゲストの専用ロッカーからフィンやマスクなどを持ち出し、船に向かった。重器材はスタッフが運んでくれている。

1本目のポイントは、キャニオン。ダイビングセンターからボート移動で約5分。エントリーして垂直に潜降していく。水深20mのリーフエッジに降りると、周囲はフトヤギやオレンジ色のソフトコーラルの群棲。少し透明度が悪かったので、一目ではわからなかったが、実は、すごいカラフルな海底が広がっていた。ガイドのマーロンに付いて、水深22mほどのこんもりした根に行くと、そこはびっしりとピンクのソフトコーラルに覆われ、無尽のキンギョハナダイが群れていた。正直な感想…「プエルトガレラにこんな景色があったなんて…」。想定外の美しい、手付かずの海底に、私は焦り始めていた。「なんて美しんだ!」と心の中で、何度も呟きながら、撮り損じのないようにゆっくりファインダーを覗いていく。スリバチカイメンやヤギのコンビネーションも面白い。今回、初めてプエルトガレラに潜ったが、この景観は本当に嬉しい誤算だった。これまでにフィリピンのたくさんのエリアで潜ってきたが、この景色はフィリピンでは初めてだった。撮影しながら、この景色をみんなに見せたら、きっとプエルトガレラのイメージも変わるのではないか?いや、プエルトガレラを知らなかったダイバーが、プエルトガレラに興味を持ってくれるのではないか、というちょっとした確信を持った。

プエルトガレラ PHILIPPINES

Travel PUERTO GALERA

惚れたぜ！キャニオン

途中、ガイドのマーロンが小さな黄色いウチワを指差した。私が「エビ?」というようなジェスチャーをするとウンとうなずいたように見えた。心の中で、「今は、エビじゃないだろ〜! もっとワイドの写真に集中させてよ〜」と思い、写真を撮っているふりだけして、2カットだけシャッターを切った。その後も、ソフトコーラルをずっと楽しんだ。頭の中はピンクだらけだった。浅瀬に戻りながら、「ホール インザ ウォール」という隣のポイントまで行き、横穴の撮影も楽しんだ。浅瀬に来て、ピンクから、地味なソフトコーラルに変化しても、ハードコーラルの美しさは変わらなかった。ご満悦でエキジットした後、一緒に潜ってくれたダイブマスターのトレーニングを終えたユウキさんが、「あの黄色いピグミーシーホースは撮れました?」と聞いてきた。「エビではなくて、ピグミーシーホースだったの!?」と私…。マーロンには内緒にしておこう…。

プエルトガレラ PHILIPPINES

Travel PUERTO GALERA

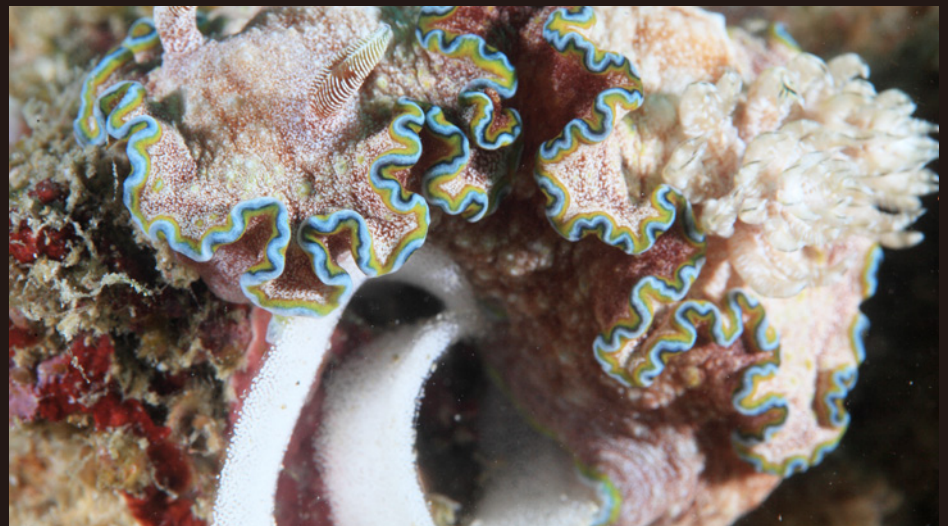
2日目の2ダイブ

2本目はジャイアントクラムに潜る。1本目のキャニオンとは反対方向である湾の中に位置するポイント。この湾は、マクロの生き物がたくさん観察できるポイント。エントリーすると水深15m辺りの砂地をいく。アジアの海に良くある、一見すると何もないような砂地だけど、よく見るとたくさんの生き物の宝庫である。砂地の色は、白っぽく、全体の海の中の様子も明るい。所々に大きなチャツボヤやウミエラがあり、それぞれにガラスハゼが付着しているので、写真撮影も楽しい。ガイドのマーロンが大きなオオウミウマのペアを見つけてくれた。そして、砂地を進んでいくと、ハタタテネジリンボウやウミウシなどどんどん見つかる。ちょっとびっくりしたのが、途中で出会ったアンカーロープの根本はミッキーマウスの柄のホヤで埋め尽くされていたこと。少し水深を上げて浅瀬に移動するとサンゴ礁のエリアになる。そのサンゴの隙間ではジョーフィッシュなども見つかり、まだまだ探せば、色んな生き物に出会えそう。最後に大きなシャコガイをいくつも見て、楽しかったマクロダイブを終えた。

tsumi-shima
ダイバーの夢をつみあげていく島
We World explorer

2日目の3ダイブ

3本目は、プエルトガレラ湾内にある シークレットガーデンへ。ジャイアントクラムに隣接するポイントで、水深約15mの砂地をダイビングしていく。最初、透明度が悪く、ガイドさんを見失わないように、撮影しながら、ゆっくりと行く。ガイドさんも要領を得ていて、私をロストしないように確かめながら進んでいく。少し泳ぐと、透明度は上がり、マクロの生き物の発見が続いた。葉っぱのように擬態するカミソリウオ、白いウミシダに上手く隠れているつもりのコブシメ。その他にもブレニーやウミウシなどが次々に現れてくる。この湾内は広い、様々な環境がある。もっと潜り込めば、珍しい生き物や素敵な場面に出会えるに間違いない。今回は、この湾内のマクロポイントでは2本しか潜ることが出来なかったので、次回はゆっくりと潜り込んでみたい。そして、ダイビングの後はトライシクルに乗って、夕日を眺めにホワイトビーチへ。ダイビングでの高揚をそのままに、美しく輝く夕日をながめて、ビーチを歩いた。



プエルトガレラ PHILIPPINES

Travel PUERTO GALERA

tsumi-shima
ダイバーの夢をつみあげている島
We World explorer

プエルトガレラ PHILIPPINES

Travel PUERTO GALERA

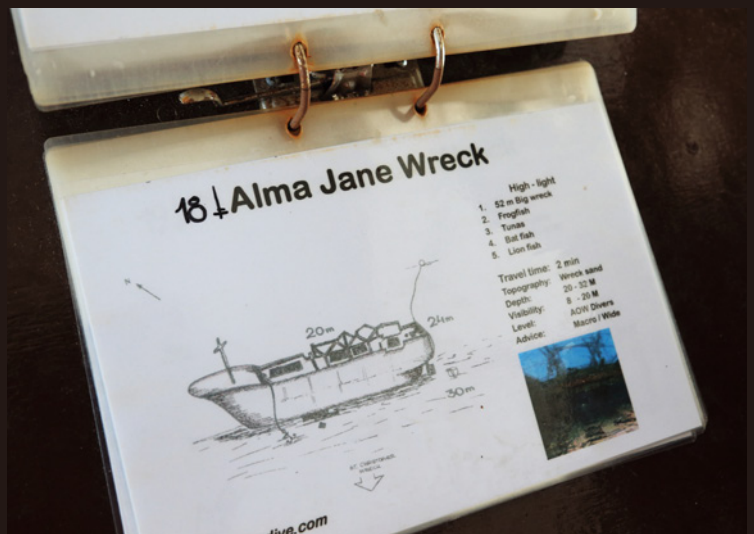
3日目の1ダイブ

3日目の朝1本目。どうしてもキャニオンに潜りたくて、前日にリクエストしていた。キャニオンは、潮の流れがあるときは、ロウニンアジなどが群れで出現し、潮の流れの中、魚群などを楽しむのが、主流だそうだが、なかなかどうして、美しい水中景観好きな私にとって、ゆっくりとした潮で海底を覆い尽くすソフトコーラルの花園をいくのは、これ以上ない幸せだ。前日と変わらず、ゆっくりとした潮。エントリーして、マーロンに付いていくと再び、ピンクのソフトコーラルの森に雪の様に降るキンギョハナダイの丘へ。今回は、フィッシュアイという超広角レンズを用意した。水深は約26m。ナイトロックスの32%を使用しているので、30分は十分に撮影ができる。それは分っているが、あまりにも美しい景色と、自分のカメラのモニターに映るギャップがあまりにも大きく、気持ちはどんどんと焦っていく。まるで、フリーランスとして独立したての自分のようだった。こんなに素晴らしい景観なのに、自分のものにできない。スリバチカイメンのとコンビネーションを撮影した後、後ろ髪を随分とひかれながら深度を上げていく。上手く撮れない思いが募り、ちょっとした恋心に変化していく。もう一度、帰ってきたい。そして、またホールインザウォールに到着。ここも変わらず、キンギョハナダイが群れ、そして少し陰になっている場所では、まるでヒマワリのようにイボヤギが咲いている。ここも美しい景色なのに、上手く撮影できない。こんなに対象を上手く表現できずにもやもやするのは、本当に久しぶり。

プエルトガレラ PHILIPPINES
Travel PUERTO GALERA
またこの海底に戻って来たい…
tsumi-shima
ダイバーの夢をつみあげていく島
We
World explorer

3日目の2ダイブ

2本目のポイントはダイビングセンターの近くの沈船ポイント。名前はアルマジェーン。この沈船は漁礁的に沈められた船で、水深25mほどの砂地の海底に鎮座している。周囲にはツバメウオの群れが見られ、沈船と魚群というミスマッチな写真を撮影することができる。沈船本体も様々な生き物の棲み家になっており、賑やかな感じ。船の中にも入っていくことができるので、船内に差し込む光なども楽しむことができる。そして、この沈船の壁にもミッキーマウスのようなホヤがたくさん群棲している。そのホヤの上では、意外と多くのヘビギンポが乗っていた。マクロレンズを持っていなかった私は、次回、次回と用意しなかった悔しさを押し殺し、納得させていた。



プエルトガレラ PHILIPPINES

Travel PUERTO GALERA

プエルトガレラの海を潜り終えて

プエルトガレラでの3日間、合計6本のダイビングだったが、とても楽しむことができた。初めて来た海ということもあったが、これまで何度も訪れたフィリピンで、セブでもない、アニラオでもないまた違った魅力を持つ海に出会えたことは、今回の大きな収穫だった。特に私の気持ちを鷲掴みにしたのは、キャニオンだった。海底を埋め尽くすピンク色とオレンジ色のソフトコーラル。その色のコンビネーションは他ではあまり見かけたことがない。そして、その海底はどこまでも続いていた。キンギョハナダイなどの魚群もピカいちで、心から、このポイントのために何度もこの海に通いたいと思った。そして、人気の湾内のマクロポイントもダイビングセンターの前に並ぶ近いポイントも、海底にウミエラやウミシダ、ホヤなどが多いので、どこかに華やかさがある。それはとても素敵なポイントだった。今回、たった6カ所しか潜ることができなかったが、とてもとても高いポテンシャルを秘めた海だと思う。周辺の海域では、2000 種類以上の魚種が確認され、ワイドからマクロの視点で楽しむことができる。今回はエントリーできなかったが、流れの強いポイントでは、ロウニンアジ、バラクーダ、ホオオスジタルミ、ツバメウオが群れ、一緒にカツオやマグロが泳ぐという。ヨーロッパや韓国、中国のダイバーにはもうお馴染みのプエルトガレラだが、是非、日本人ダイバーにも潜って欲しい。

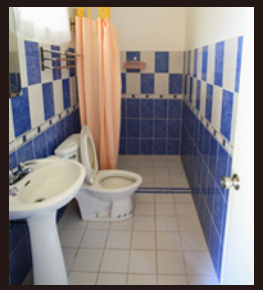
tsumi-shima
ダイバーの夢をつみあげていく島
We World explorer

プエルトガレラ PHILIPPINES

Travel PUERTO GALERA

オリエントパールリゾート

プエルトガレラは、3つに大別できる。ダイビングセンターが並ぶ歓楽街のサバン地区。そして海岸線にレストランやお土産屋さんが並ぶホワイトビーチ地区。そして、ディスコなどがなく静かなエリアのムリエ地区。ムリエに位置するオリエントパールリゾートは、街の喧騒から離れ、雑音のないリゾートライフを楽しむことができる。日本人オーナーのモルテル琴さんが経営し、もうすぐ10年目を迎える。本館6部屋、別館3部屋で、室内は広く、日本人向けに、シャワールームも明るく清潔を保っている。また水圧も強い。ゆっくりくつろげるように、部屋の奥に広いベランダがあり、屋上からはタ日を眺めることができる。日本食レストランとしても人気で、コックは琴さん。刺身などではなく、生姜焼きやかつ丼などの日本の家庭料理に人気がある。ダイビングに行くリゾートのゲストが3名居れば、近くの港まで、バンカーボートで迎えに来てくれる。2名以下の場合は、トライシクルに乗って、サバンのダイビングセンター<ABwonderdive>まで連れていってくれる。



ABwonderdive

今回、お世話になったダイビングセンター<ABwonderdive>。デンマーク出身のビヨンさんとアリスさんが 2006年 6月に設立。4ローカルガイドと数名のインストラクターが在籍する。日本人ガイドは基本的にいないが、場合によってはフリーランスの日本人インストラクター、またはダイブマスター候補生がお手伝いしてくれる。ダイビングスタイルはボートダイビングで、午前中は9時、11時半、午後は3時からのスケジュールになる。少人数制で、ローカルガイドが案内してくれる。ピグミーシーホースなどは見せてくれるが、ダイビングスタイルは、ヨーロピアンスタイル。ガイド陣も日本人好みのガイディングを習得してくれることを期待するが、魚影が豊富なので、自ら積極的に探すことをお薦めする。ボートポイントは40カ所以上で、遠くても12分ほどと、とても近い。そのためにダイブ毎にダイビングセンターに戻ってくることができる。また、バンカーボートではなく、スピードボートを利用しているので、船足も早い。ナイトロックスも完備。ダイビングセンターの1階はレストランも併設し、ランチの大きなハンバーガーなどは美味しくて大人気。2階にはクラスルームなどがある。

tsumi-shima
ダイバーの夢をつみあげていく島

プエルトガレラ PHILIPPINES
Travel PUERTO GALERA
ねっ、プエルトガレラまで、来ってく？
BARAKO
Kawasaki
tsumi-shima
タイパーの夢をつみあげていく島
We World explorer